

国保依田窪病院 倫理審査申請書

令和5年9月19日提出

国保依田窪病院院長
倫理委員会委員長 様

申請者
氏名 上沢 時枝
所属 訪問看護ステーション
職名 看護師



※ 受付番号 No.

1. 課題名	看護研究「在宅において褥瘡のある患者家族への支援についての一考察」
2. カテゴリー	☐ 疫学的な調査のための臨床研究 ☐ 診断及び治療法の効果を調べる臨床試験 ☒ 学会等提出論文 ☐ 委託研究または製造販売後調査 ☐ その他 ()
3. 実施 責任者名	上沢 時枝
4. 実施 分担者名	訪問看護ステーション スタッフ
5. 医療の概要	実施期間 令和5年3月～令和6年1月まで 概 要
6. 医療の対象並びに実施場所	対象例数 1事例 医療対象 訪問看護利用者 実施場所 訪問看護ステーション
7. 実施計画書	別紙
8. 医療における倫理的、社会的配慮について	(1) 医療の対象となる者の人権擁護 (2) 医療の対象となる者の理解と同意 (3) 医療の対象となる者に生ずる危険性と不利益に対する配慮 (4) その他
9. 審査資料	☒ 実施計画書 ☐ その他 ☐ 同意説明文書及び同意書

- 注意事項
- 1～5は必ず記入し、ファイルをメールまたはメディアに保存し提出すること。
 - 審査対象となる別添資料があれば、全て添付すること。(別添資料添付漏れのある場合審査できません。)
 - ※印は記入しないこと

(R5)年度 看護研究計画書
所属：看護部 訪問看護ステーション
筆頭研究者：上沢 時枝 共同研究者：訪問看護ステーションスタッフ
計画書作成日：R5 年 8 月 10 日
タイトルもしくはテーマ 「在宅において褥瘡のある患者家族への支援についての一考察（仮）」
I：研究の動機・背景（何がきっかけで研究に取り組もうと思ったか） 現在自身が所属する訪問看護ステーションでは、利用者全体の約10%が高齢夫婦世帯であり、ケアの協力が得られない場合もある。今回、重度褥瘡を発症し処置が必要となったケースにおいて、訪問看護の介入により在宅でのケアを継続し褥瘡が治癒できたケースを経験した。その際の家族への支援については、ケアへの協力を得るために困難な場面があったが、支援方法を検討し在宅でのケアを継続することができた。その要因を明らかにすることで、今後の訪問看護での家族支援につなげることができるのではないかと考えた。
II：研究目的と研究意義（何を明らかにしたいのか、何を期待されるか） 在宅で褥瘡処置が必要となった利用者および介護者への関わりを振り返り、後方的に分析しその要因を明らかにし支援の一助としたい。
III：仮説（必要時）
IV：研究の方法（対象、期間、費用など） ☐ 対象 訪問看護利用者1名 ☐ 研究方法、分析方法 事例研究：訪問看護記録をもとに、対象事例を家族看護の理論を活用し後方的に分析する ☐ データ収集方法 訪問看護記録 電子カルテ記録 ☐ 研究期間と調査期間 令和5年3月～令和6年1月
V：倫理的配慮 ※利益相反があればその旨を記載する
VI：文献検索： 医中誌より、関連する書籍・学会発表論文にて検索
VII：その他 発表形式：院内発表